

論文審査の要旨および担当者

報告番号	甲 第 号	氏 名	中川 優里
論文審査担当者：	主査	慶應義塾大学大学院 SDM 研究科 教授 博士（工学） 小木哲朗	
	副査	慶應義塾大学大学院 SDM 研究科 教授 Ph.D. 春山真一郎	
	副査	産業技術大学院大学 産業技術研究科 教授 博士（工学） 成田雅彦	
	副査	東京大学 人工物工学研究センター 准教授 博士（工学） 原辰徳	
(論文審査の要旨)			
<p>高度情報通信社会の進展に伴い、購買情報や行動履歴などの個人に関わる情報は、日々膨大に生み出され、社会の様々な場所に分散して記録されている。これらの情報は、企業にとって大きな興味の対象となる一方で、情報を生み出している個人がこれらの情報を把握し、一元的に管理することは困難であり、また、企業に対して自分の思い通りに自分の情報を利用させて対価を得るといった運用手段もない。</p> <p>そこで本研究では、これらの課題を解決するために、日々情報を生成する個人が、自身の情報を自分自身で管理し、その情報を利用したい第三者に適切な対価と引き換えに利用させることが可能なフレームワークを提案した。本論文は「購買に関するライフログ情報の取得と運用の研究」と題し、以下の8章から構成されている。</p> <p>1章では、本研究の背景となった現状と、本研究の目的を述べ、2章では、個人に関わる情報に関する各国の取り組みと動向、企業におけるサービス提供の現状について記載し、本研究と関連研究について比較検討を行った。</p> <p>3章では、個人に関する情報の取得と運用に関する現状の2つの課題を挙げ、それぞれの根拠について述べた。</p> <p>4章では、課題を解決する提案として、購買情報に着目した情報バンクと呼ぶ情報の取得・管理・運用を行うフレームワークを提案した。提案する情報バンクは、個人が、自身に関する情報を情報バンクに保存した上で様々な形で利用を可能とし、これらの情報を自身で利用できるだけでなく、その個人情報資産として個人が選択した方針で、企業に利用させることができる仕組みである。また、その情報利用の対価として企業から得られる収入を可能な限り個人に分配することが出来る仕組みである。</p> <p>5章では、提案する情報バンクの実現の一つとして、情報の取得に関する課題を解決するために、技術的な面と意識的な面から検討した。技術面においては情報を取得・管理することが出来るシステムとして、POS レジから自動で情報を取得する方法を検討・試作し、これによって、個人が自分自身で情報を取得することが出来るようになった。また、取得情報を自分自身で管理・活用することが出来るシステムとして、家計簿アプリケーションを試作した。意識面においては、試作したシステムが、市場においてどの程度受け入れられるかを評価するために、家計簿に関するアンケート調査を行った。これらの試作・検討・調査の結果、本提案が情報の取得に関する課題の解決になり得ることが示された。</p> <p>6章では、提案する情報バンクの実現の一つとして、情報の運用に関する課題を解決するために、個人が選択した範囲で自身の情報を企業に利用できるようにする仕組みについて、技術的な面と意識的な面から検討した。技術面においては、個人が自身の情報に関して開示レベル分けを予め行うことで、店舗からの有益な情報やクーポンなどの割引情報の提供を受けることができるデジタルサイネージを使ったサービスシステムの提案、試作を行い、検討した。意識面では、個人側に対しては、より積極的に運用した人に多くの対価が得られるようにするために、各種情報に対する開示レベルや運用方法に関するアンケート調査を行った結果、個人の属性や対象種別により様々な差があり、運用時に対応する必要があることがわかった。企業側に対しての意識調査では、提案したサービスに興味を持つことや導入における問題点などが明らかになった。</p> <p>第7章では考察と今後の議論を、第8章で結論を示した。</p>			
<p>以上、本研究では、購買情報を対象に、個人に関するライフログ情報を、個人が主体となって取得、運用するために、情報バンクを中心としたフレームワークの提案を行い、情報の取得、運用における課題に対して、プロトタイプの試作による技術面と、アンケート調査による意識面からそれぞれ評価、検討を行った研究であり、システムデザイン・マネジメント研究科における博士学位論文として、十分なレベルにあると判断し、「合格」と判定する。</p>			